

平成16年度みずほ福祉助成財団社会福祉助成金助成事業

**精神保健福祉士教育養成課程における  
実習の指標に関する調査研究  
報 告 書**

社団法人日本精神保健福祉士協会

<http://www.japsw.or.jp/>

## 【はじめに】

精神保健福祉士の教育養成過程（以下「教育養成過程」という。）において、現場での実習は必須条件であり、また質の高い実習を享受できることは、その後の精神保健福祉士としての業務への反映や、自身の専門性の醸成に強い影響を及ぼす。対人支援の専門職として求められるものは何か、教育現場だけではなく実習現場で深め気づいていくことが重要である。

精神保健福祉士を養成する教育機関の増加もあいまって、対象となる学生数も増加の傾向にある。実習を受け入れる機関では、急激な対象学生の増加という物理的影響に加えて、精神保健福祉士実習のあり方について実習指導者を中心に多くの苦悩を抱えているのが現状である。

そうした背景を踏まえ、精神保健福祉士を構成員とする社団法人日本精神保健福祉士協会では、教育研究部研修委員会内に精神保健福祉士実習対策プロジェクト（以下「プロジェクト」という。）を設置し、教育養成過程における実習の現状の把握と実習指導者の資質の向上を図るとともに、実習における課題の整理と課題解決のための方向性の示唆を行うことを目的に調査研究を行い、この度、報告書としてまとめるに至った。調査研究に際して用いた集積データの数量については充分とはいいがたいが、プロジェクトで想定した精神保健福祉士実習現場の状況が反映されているものと考えらる。

この報告書が、精神保健福祉士実習の更なる充実に向けての一助となれば幸いである。

最後に、本調査研究事業にご助成いただいた財団法人みずほ福祉助成財団に深く感謝申しあげるものである。

2006年3月

精神保健福祉士実習対策プロジェクト  
責任者 木下 了丞